

小学校社会

1 小学校社会科の指導と評価について

(1) 小学校社会科の学習内容について

① 改訂のポイント（次の6点に整理）

ア 目標の改善

- ・ 「社会的な見方・考え方を働かせ…」：社会科における見方・考え方
- ・ 「課題を追究したり解決したりする活動を通して…」：問題解決的な学習

イ 社会的事象の見方・考え方の整理

ウ 内容の整理・改善

- ・ 第4学年の学習を進める際に、第3学年のどの単元と関係があり、第5学年のどの単元につながっていくのか、系統性がわかる。 ※小学校学習指導要領 解説 社会編 参考資料2
- ・ 中学校への接続・発展を視野に入れて学習を進めることが可能。

エ 内容の充実

- ・ 我が国の政治の働きや世界の国々との関わりへの関心を高める。
(例) 第6学年(1) 我が国の政治の働き 政治の働きへの関心を高める。
(2) 我が国の主な歴史上の事象 世界の国々との関わりへの関心を高める。

オ 新たな事項を内容の取扱いに規定

カ 指導方法の見直し・改善

② 学習指導要領の読み方の理解

ア 学習指導要領（社会）はほとんど（歴史以外）が同じ構造である。

イ 何度も読んで、その上で実践する単元をイメージをすることが重要。

【学習指導要領の構造】

(1) Aについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識や技能を身に付けること

(ア) Bを理解すること

(イ) Cなどで調べて、Dなどにまとめること

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること

(ア) Eなどに着目して、Fを捉え、Gを考え、表現すること

次のように読み替えることで、学びのプロセスがわかる。

Eなどに着目して、

Cなどで調べ、

Dなどにまとめて

Fを捉え、

Gを考え、表現することを通して、

Bを理解すること。

(2) 小学校社会科の学習評価について

① 基本的な考え方

ア 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと。

イ 教師の指導改善につながるものにしていくこと。

ウ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性がないものは見直していくこと。

② 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の観点ごとのポイント

ア 内容のまとめり ※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 P27

イ 「知識・技能」

「知識」については、学習指導要領に示す「2 内容」の「知識」に関わる事項に示された

「…を理解すること」の記述を当てはめ、それを児童が「…理解している」かどうかの学習状況として表し、評価規準を設定する。「技能」については、学習指導要領に示す「2 内容」の「技能」に関わる事項に示された「…調べたりして、…まとめること」の記述を当てはめ、それを児童が「…調べたりして…まとめている」かどうかの学習状況として表し、評価規準を設定する。

ウ 「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」については、学習指導要領に示す「2 内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項に示された「…着目して、…を捉え、…考え、…表現すること」の記述を当てはめ、それを児童が「…着目して、…を捉え、…考え、…表現している」かどうかの学習状況として表し、評価規準を設定する。

エ 「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領に示す「2 内容」に「学びに向かう力、人間性等」に関わる事項が示されていないことから、学年目標や観点の趣旨を基に評価規準を設定する。ここでは、目標に示されている、「主体的に問題解決する態度」と「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度」について「主体的に問題解決しようとしている」かどうかと「よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしている」かどうかの学習状況として表し、評価規準を設定する。

② 単元の評価規準の作成のポイント

ア 「知識・技能」

「知識・技能」については、「…を調べ、…まとめ、…理解している」などと知識と技能を関連付けて評価規準を作成する。

イ 「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」については従前通り一体のものとして評価規準を作成する。

ウ 「主体的に学習に取り組む態度」

「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面について、「主体的に学習に取り組む態度」として評価規準を作成する。

2 小学校社会科における 1 人 1 台端末の活用について

(1) それぞれの学年における「調べまとめる技能」

- ① 第3, 4 学年：調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ② 第5, 6 学年：地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) ICT 端末の活用の注意点

- ① 単元の目標の実現のために、育てる資質・能力を明確にする。
- ② ICT 端末のメリット（早く効果的に情報収集ができる・見えにくい情報を見えるようにできる・繰り返し再生できる・拡大して細部まで確認できる・情報を共有して考えを広げたり、深めたりできる）を把握する。
- ③ ICT 端末をどんな場面であれば効果的に活用ができるのかを意識する。
 - ・ノートを活用することが効果的な場面であれば、ノートを活用する。
 - ・地図帳を活用することが効果的な場面であれば、地図帳を活用する。
 - ・ICT 端末を活用することが効果的な場面では、ICT 端末を活用する。

3 参考となる資料等について

- (1) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 （文部科学省 平成29年7月）
- (2) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校社会（国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月）